



玉露童女追悼集

四 江苏工业学院图书馆  
藏书章

玉露童女追悼集 四

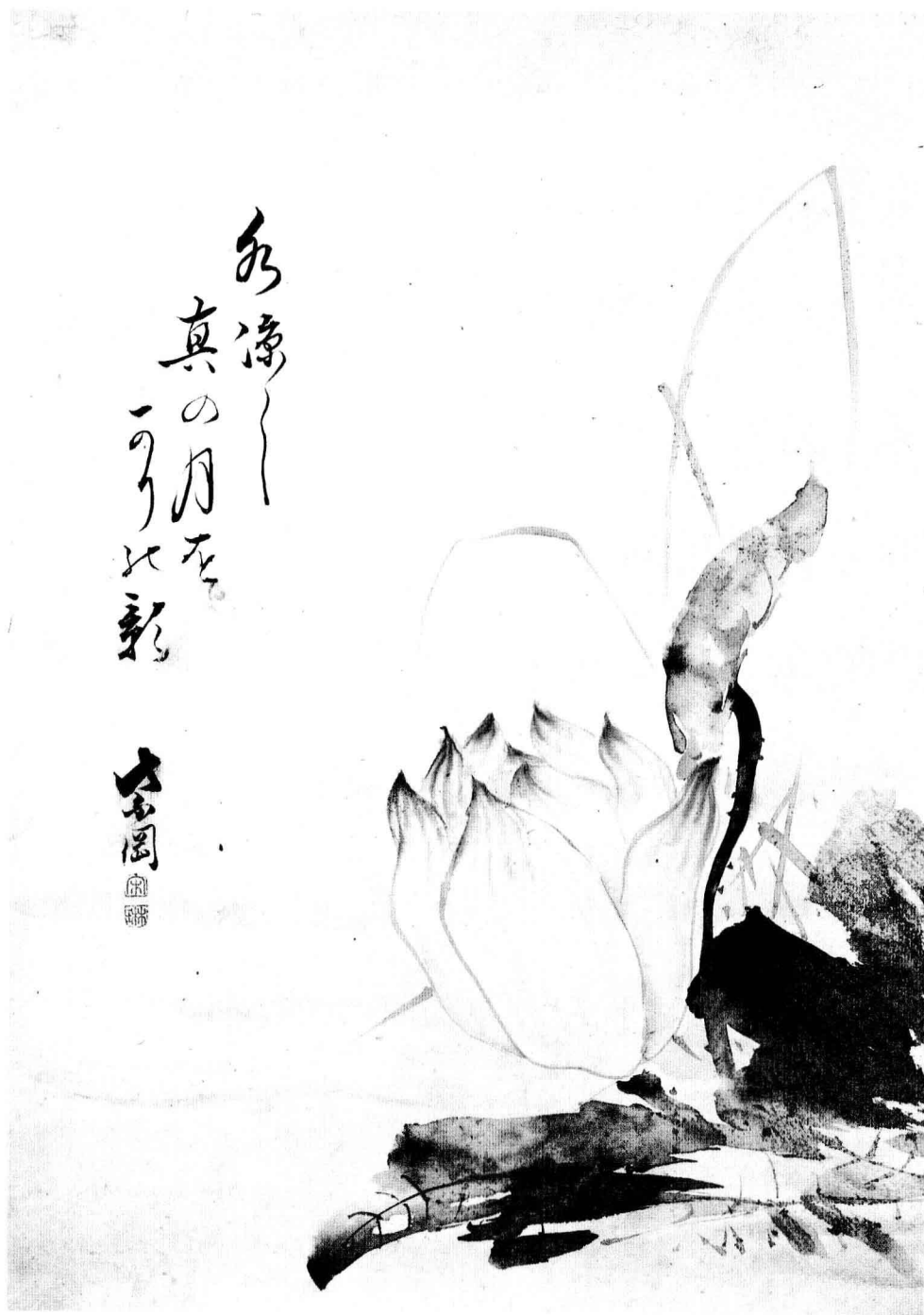
平成六年十月十八日 発行

編 著 玉露童女追悼集刊行会  
発 行 金 龍 山 浅 草 寺

〒一一一

東京都台東区浅草二―三―一  
電 話 〇三(三八四二)〇一八一  
振 替 東 京 六・三三一〇  
F A X 〇三(三八四五)六九三三

印 刷 株式会社 大塚巧藝社



楠本雪溪（紫岡）画「蓮華図」（第21巻）63頁



矢部作兵衛（泉田）画「露草図」（第21卷）63頁



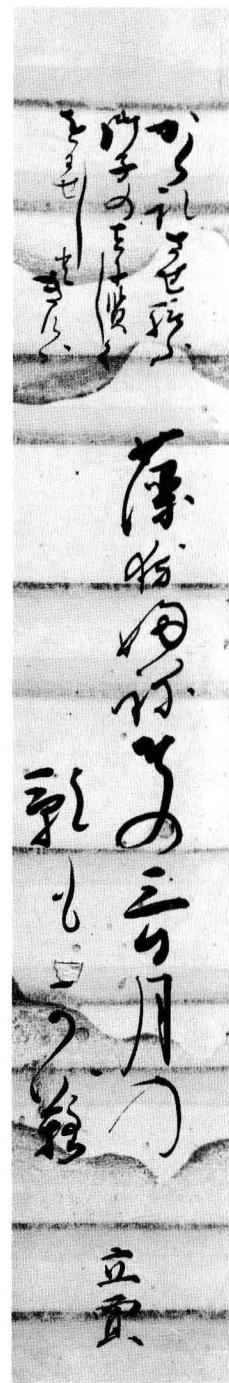
山本雪洞画「芋葉図」(第21卷)64頁



田島繁右衛門  
(雪貞)書 (第22卷)  
96頁



須度平兵衛 (昌平里  
五調)書 (第21卷)  
65頁



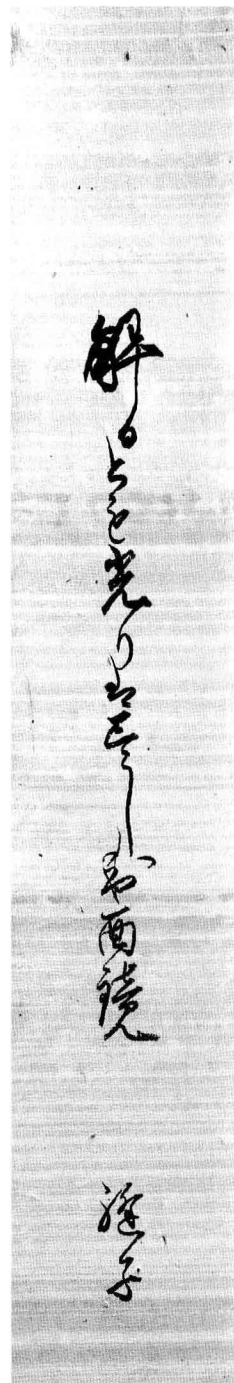
山本勘之丞 (立賈)書  
(第21卷)65頁



吉田泰菴（巴水）書  
（第22卷）97頁



宮寺岩之助（千鐘）書  
（第22卷）97頁



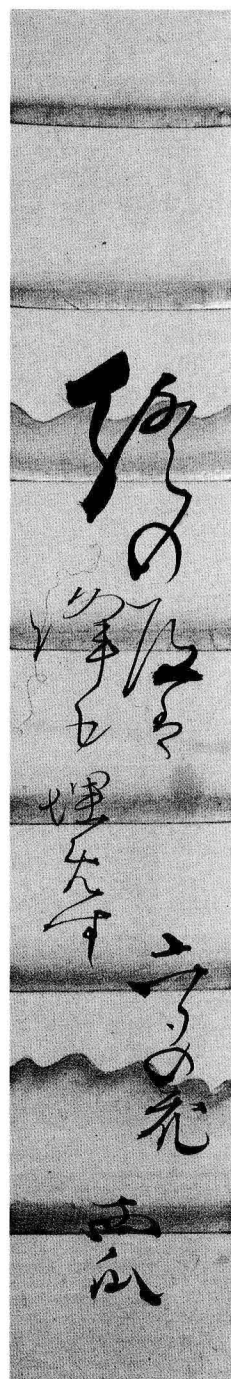
田島繁右衛門母  
（縫子）書（第22卷）  
97頁



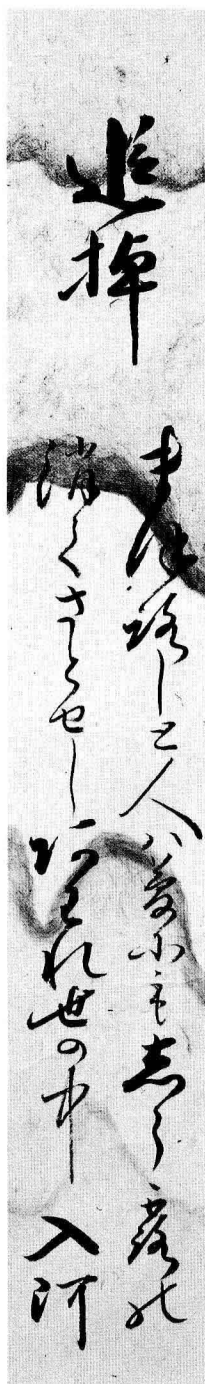
石川寅五郎（山光）書  
（第22巻）97頁



石川藤吉書  
（第22巻）97頁



高野平蔵（西瓜）書  
（第22巻）97頁



伝通院（入阿）書  
（第24巻）133頁



光明寺（喚阿）書（第24巻）133頁





大光院（性阿）書（第24卷）133頁



弘経寺（有在阿）書  
（第24卷）133頁

# 目次

|         |     |
|---------|-----|
| 口 絵     | 1   |
| 凡 例     | 10  |
| 玉露童女追悼集 |     |
| 第十九卷    | 11  |
| 第二十卷    | 33  |
| 第二十一卷   | 55  |
| 第二十二卷   | 79  |
| 第二十三卷   | 105 |
| 第二十四卷   | 131 |
| あとがき    | 158 |
| 浅草寺史編纂所 |     |
| 人名索引    | 163 |

## 凡例

- 一、漢字は原則として常用漢字を用い、古体・異体・略体文字も現行字体に改めた。
- 一、変体仮名は平仮名に改めた。ただし、ニ・ハ・ミ・江は原本のままとした。
- 一、校訂者の注記には、すべて（ ）を付した。
- 一、当時慣用の宛字はそのままとし、明らかな誤字は傍らに正字を注記した。また脱字と思われる箇所には、（脱カ）と傍注した。
- 一、虫喰・欠損・難読の箇所は、□か「 」で示した。ただし、判読可能な場合は、□<sup>（山カ）</sup>または山<sup>（カ）</sup>などと傍注した。
- 一、人名を記した貼札は□で示した。
- 一、漢詩・漢文は、読み下し文に改めた。
- 一、印は、印形にかかわらず、すべて印で統一した。

玉露童女追悼集

第十九卷



はな美むつめたるやうな  
 冬もかさをいたはりて夢のやうにて  
 うせ給ひぬいまた難波津をもまなはせ  
 給ぬにくさ／＼のここの葉を書  
 をかせたまひぬそかなかにみそ  
 ひともしなるもあり又かた哥もあり  
 ミな人の世のはかなきことをしめし  
 給ふこゝろはへなりいとめつらかに  
 不思議なることになむ父の君かな  
 しませ給ふあまりに其ことの葉  
 ともをあまたの人に見せたまひて  
 たむけのうたをよませ給ふ応斎にも  
 よみて奉るへきよし聞え給ふに  
 老か世のならひ有を見るたに袖  
 ぬらしかちなるにかゝることをみまいらせ  
 てはたゝむねのミふたかりてなか／＼に  
 ここの葉なと書つゝくへくもなしされと  
 しめていなミまいらせむいと／＼  
 かしこければ例の六字を句のかしらに  
 をきて涙なからにかいつけ侍る

應齋

あや—このよののちねえとて  
ふとちのちをえとみりつけ  
ひりやまたやえり—たなかの  
ちねえとみりさうは  
あさからぬえりか—時のまの  
親とこふのかえのちとて  
ふとちねえとみりか—  
こふのちねえとみりか—  
さふやえり—たなかのちねえと  
えり—たなかのちねえと  
あさからぬえりか—  
ふとちのちねえとみりか—

悼

さそな嘸  
こほれ萩  
佳兆

思ふにもなき世中の名こりとて  
つくることはそ実もかなしき  
氏敏

應齋

なてしこのかれふの霜のきえて只  
六とせのゆめを忍ふおもかけ  
むかしにもためしはあらしおさなきか  
書残したるミつくきの跡  
あさからぬえにしならまし時のまの  
親とこてふのゆめのちきりも  
みやき野のこはきや枯てのこしけむ  
こと葉の花になミたそとけと  
たまやいまにしにありかを尋ても  
しはしあひ見むまほろしもかな  
ふてにかき口となへて手向には  
ほとけの御名のかすをつまなむ

五島大和守

悼  
さそな嘸  
こほれ萩  
佳兆

戸田中務太輔

思ふにもなき世中の名こりとて  
つくることはそ実もかなしき  
氏敏